

The Japan Interior
Designers Association
Monthly Report ———
No.231
Jan, Feb, Mar, 2006

JID news

JID月報：通巻231号
平成18年1月・2月・3月号
発行日：平成18年3月31日

発行：(社)日本インテリアデザイナー協会
〒163-1008 東京都新宿区西新宿3-7-1
新宿パークタワー8F
電話 03-5322-6560 FAX 03-5322-6559
発行人：川上玲子

社団法人日本インテリアデザイナー協会

目次

巻頭：APSDA
緊急リーダーシップ会議

本部報告(事業推進担当)	2	事務局からのお知らせ	15
平成17年度 第3回理事会議報告	3		
委員会報告(選考委員会)	6		
// (総務委員会)	7		
// (情報委員会)	8		
// (交流委員会)	9		
支部活動報告(関西事業支部)	9		
// (関東事業支部)	10		
// (九州事業支部)	12		
// (中部事業支部)	13		
新会員紹介	14		

理事長報告

APSDA 緊急リーダーシップ会議

アジア太平洋空間デザイナー団体連合〈2月21日～23日〉於：上海

理事長
川上 玲子



今回は急に会長国である台湾より緊急会議を開きたいとの連絡を受け、今後のAPSDAに関する重要事項の検討でもあり、JIDとしても理事長が出席すべきと考えて私と次期担当理事予定者の酒井正人会員の二人で参加して来ました。

総勢28人が集まりましたが会議はオーストラリア、香港、インド、韓国、マレーシア、フィリピン、台湾、日本の8ヶ国の理事長、副理事長に加えてIFIヨーロッパ連合ECIAの理事長がゲストとして出席、懸案の議題に関しては活発な意見交換と終始明るい友好的ムードの中で行われました。今回出席して感じたことは経済的な事

は抜きにしてJIDに対してリーダーシップを取って引っ張って欲しいという期待感が大きいことでした。会議以外の場所でもいろいろな裏事情や今後の対応策など話をする機会も多く、そんな中で創立50周年を控えたJIDをアピールしながら予算は無いが何かAPSDAのメンバーが協力しあえる企画を考える旨の茶飲み話に花が咲きました。現在発展途上にあるアジア諸国はデザイナー団体に対してスポンサーシップと協力体制の充実が同われ、今回の会議も上海の企業やデザイナー団体の援助が相当あったようです。11月にはマレーシアでの総会も決まり、アワードに関しては今年は時間が無いのでAPSDAプレアワードとして各国1点の学生、プロの作品を選出、主催国に今回に限り賞の決定を一任することにしました。今後は韓国、台湾、日本が中心に詳細を決定、2008年のシンガポールの総会から正式なアワードとしてスタートすること、又ロゴは今迄馴染んだデザインを基本として継続、此れ等の意見をJIDが提案し、全員一致で可決されました。まだ議事録は届いていませんが、主な会議内容は次頁をご覧ください。

APSDA 緊急リーダーシップ会議の内容

1. APSDA 2006 会議開催について

今年開催予定だったオーストラリアでの総会、会議が不可能になり2010年に立候補予定のマレーシアが急遽候補地として名乗りをあげ、プレゼンテーションの結果、11月開催が決定された。従って台湾の理事長からマレーシアの理事長に正式なホスト国としての引き継ぎが行われた。

2. APSDA アワードに関して

台湾はUS\$30,000の予算案を提案し、スポンサーシップの可能性を出したが今回はプレアワードとする。予算次第で受賞者2名を授賞式に招待する。今後の正式なアワードの詳細は韓国、台湾、日本で協議し、2008年のシンガポールでの開催から正式なAPSDAアワードをスタートさせる。

3. APSDA ロゴに関して

全く新しいロゴはやめて今までのロゴを継続し、基本を守りながら開催国のデザイン的特徴を出す。

4. APSDA 常設委員会

フィリピンの提案により11委員会を5委員会にまとめる。JIDはメンバーシップ委員会を担当する。登録済みの個人の会員は今迄通り活動する。

5. 上海インテリアデザイナーズクラブ(SIDC)との交流会
建築家やインテリアデザイナー、関連企業が所属するグループで今回のスポンサーと思われる。作品が紹介されたが興味が湧くものではなく、私達と韓国の正、副理事長は真面目に対応したが途中で席を外すメンバーもいた。

以上 理事長 川上 玲子



本部・事業推進担当

2年間の活動を振り返って

(GOOD PLANからGOOD PRACTICEへ)

平成16年春に新組織として理事会内に『事業推進担当』を発足させ、私と安藤清理事、丸谷芳正理事の3人が担当することと成りました。私が神戸、安藤氏が名古屋、丸谷氏が高岡と遠隔で、メールでの意見交換、時に名古屋に集まり会議を重ねました。

新組織の故、「何をどうする」の議論から始まり、JID全体の事業の見直し、本部事業と支部事業の意味・住み分けなど基本的な骨格を纏めるのに、半年が掛かりました。平成17年の1月の理事会で『事業推進5つの基本方針』が承認されました。

(1) 本部・支部事業の役割と全国展開

(2) 賛助会員・他団体との事業推進

(3) 事業推進システムの導入

(4) プロモーション

(5) 国際的活動の基盤づくりが5基本方針です。

(1)については、『JID賞2006』の全国巡回展が平成18年度に計画されます。支部事業の全国展開はこれからですが、関東事業支部企画の『大・テーブル展』が展開出来ないか思案中です。(2)は、本部総務委員会で『Jプロジェクト』が発展的に進行しています。(3)は、『平成17年度年間事業計画一覧』及び『JID5ケ年スケジュール』が表作成出来、本部・支部事業の相

互関連が見えて来ました。(4)は、『JID賞2006』の成功が、大いにJIDをプロモーションしました。『ワーク集』は現在進行中です。(5)は、この所、APSDAとの係わりが進んでいます。今後の課題は、支部事業の活性とその全国展開でしょう。また、2008年のJID創立50周年記念事業に向けてのプレ事業をどのように構成していくか当面の課題でも有ります。(小宮 容一)

小宮・丸谷両氏の牽引により2年間の事業推進の大役を終えいよいよ各地域での実行の年度を迎えます。

中部ではACTの若い方々を活動に必ずお誘いしJIDの認知度を高めつつあります。昨年より「中部インテリア連絡会」を設けインテリア関連の各協会との情報の共有を目的として数回会合を設け今年の9月にはプランナー・コーディネーター・JIDアワード合同展示会をデザインセンターの年度企画として計画しています。(安藤 清)

2年間事業推進を担当して振り返りますと、微力ではありますが小宮・安藤両氏に助けられながら、これからのJIDの活動指針を何とか示すことが出来たのではと感じています。しかしながら、ここからが正念場です。

GOOD PLANからGOOD PRACTICEへ。よい計画も実行されなければ絵に描いた餅同然です。それには各事業支部が『事業推進5つの基本方針』を理解し各事業支部の特性に合った活動を展開することであり、各事業支部同士が連携し、補完し、影響しあうことです。JID創立50周年記念事業はまさしくこのことを実行するよい機会になることでしょう。(丸谷 芳正)

理事会

平成17年度 第3回理事会

日時：平成18年1月20日(金) 12:00～14:30

場所：社団法人日本インテリアデザイナー協会

OZONE 会議室

出席：理事長 川上玲子

副理事長 小宮容一、阪井良種

理事 秋山修治、岩倉榮利

吉良ヒロノブ、坂本和正

委任出席 安藤清、清家淳一、丸谷芳正

山永耕平

監事 川上信二、中川千年(欠席)

オブザーバー 八十常充

I 報告事項

[1] 各事業支部及び本部各委員会事業推進状況

[3] 平成17年度収支状況報告(11月末)

[4] その他

・財務運営資金繰り

・次回理事会予定

平成17年度第4回理事会

平成18年3月24日(金) 13:30～16:30

II 議題

第1号議案 平成18・19年度組織・役割について

第2号議案 平成18年度事業計画予算要求案について

第3号議案 「新日本様式」協議会参加の件

第4号議案 後援・協賛名義承認の件

第5号議案 会員入退会承認の件

第6号議案 議事録署名人選任の件

III その他の承認事項

1. 関東事業支部研究委員会「OZONE 大・テーブル／卓展」に関し JID 創立 50 周年記念事業プレイベント名義使用承認の件

2. APSDA 緊急会議出席承認及び予備費使用の件

3. 会員ワーク集に関する件

I 報告事項

[1] 各事業支部及び本部各委員会事業推進状況

◆関東事業支部(阪井)

1. 総務組織委員会

第3回、第4回インテリアトレンドセミナー企画会議開催。

11月7日 スイス・インテリアデザイナー協会との交流会

及びセミナーをアイデックショールームにて開催。

12月5日 第3回インテリアトレンドセミナーをセラトレーディングで開催。

支部委員会活動に関わる書式フォーマット、経費内訳に関する会議開催。

「ACT 関東」IFFT 展覧会出展準備及び IFFT に7名で9点を出展。

2. 事業委員会

OZONE 住いづくり・リフォームセミナー開催、10月／道明三千代、11月／中田重克、12月／酒井正人(現場見学会セミナー)

3. 交流委員会

アルミセミナー開催。

4. 研究委員会

「テーブル展」企画会議、全体会議及び役割セッション会議開催(月／3回)、及び(株)リビング・デザインセンターとの企画会議実施。

スケルトンインフィル&リノベーションに関するセミナー開催企画。(平成18年3月開催を目標)

5. 情報委員会

支部ホームページのデザイン検討、基本構成の制作依頼(外注)、広報活動についての具体的内容の検討会議実施。

◆中部事業支部(文書にて)

1. 12月17日 12月役員会・連絡会実施。

2. 12月20日 大阪「日本の空間デザイン展」VS「扇子展」交流会に参加。(大阪ATC)

3. 1月10日「CCDO平成18年新春デザイン交流会」をメルパルク名古屋にて実施。

4. 1月19日 第3回中部インテリア連絡会開催。(サンゲツ本社)

今後の予定

1月21日 JID 新年会 + ACT 交流会・1月連絡会予定。

2月18日 2月度役員会・連絡会予定。

3月18日 3月度役員会・連絡会予定。

◆関西事業支部(オブザーバー 八十、小宮)

1. 総務部会

来期事業計画、予算作成。来期支部長、副支部長(情報部会含む)会議を開催予定。来期運営部会役員決定を計る。2月21日 支部運営部会開催予定。

2. 組織部会

次期組織部会役員組織中。

事業・賛助会・協賛企業グループ 2月18日「第6回企業における新製品および重点商品説明会及び交流会」開催予定、於：大光電気(株)ショールーム。

3. 情報部会

来期部会活動会議開催予定。18年3月機関紙「E

CHO」発行予定。「関西通信」随時メール配信。

その他、JIDニュース231号関西ページ担当。

4. 研究・発表部会

12月13日 小学校におけるインテリア実験実習「あかりを楽しむ」実施。(堺市立錦西小)

12月15～20日「日本の空間デザイン展2005」開催。

学生賞実施。中部事業支部参加交流会開催。

2月初旬発表グループ会議開催予定。その他2月「野村別邸」など見学会実施予定。

5. ACT kansai

定例会議開催・2月初旬「勉強会」開催予定。

6. USD-O (大阪デザイン連合機構)

1月12日 理事会予定。2月3日 新年会予定。

その他

大阪産業デザインセンター発「中小企業デザイン導入パイロット事業(案)」推進。

◆九州事業支部(文書にて)

1. 1月21日(土)～22日(日)の2日間「座る形一展」(アダル5階セミナー室)開催予定。

2. 1月21日(土) 福岡例会、JID九州新年会とボーエ・モーエンセン回顧展見学予定。

第1回 JID-KYUSYU ファニチャーデザインコンペ2006 開催予定。審査及び表彰式、役員会予定、18年度事業計画、予算、本部役員選挙報告及び新年度役員選出。

3. 山口・島根例会予定。

◆本部総務委員会

12月6日委員会開催。

J-プロジェクト第2回実行委員会開催。

11月8日の第1回実行委員会に続いて、第2回実行委員会を13社参加で開催。J-プロジェクト全体の構築、広報関係、賛助会員とのコミュニケーションの3テーブルに分け、分科会形式でディスカッションを行った。それぞれのテーブルでは、総務委員が中心に活発な議論を進行し、実施に向けた貴重な意見を集約することができた。

1月11日 委員会開催。ニューイヤーズパーティの準備打ち合わせ。IDカード更新準備。

◆本部交流委員会(坂本)

2006年秋に開催が予定されているAPSDA会議に関して、主催国オーストラリア(DIA)が開催運営不可能の通達を出した。そのため今後の調整策をまとめるためにAPSDA緊急会議が2月20日～22日に開かれます。開催地は上海の可能性が高く、代表派遣を求められています。

これに関し委員会内で協議

1. 国際活動の一環として、JIDは日本を代表するIFI及びAPSDAのメンバーとして事態改善のため、他のメンバーと協調していくことが求められている。会議に参加する積極的な姿勢を表明し、明確な意見を述べることは国際的な交流の中でJIDをアピールし確立することに繋がる。交流委員会としては出席することが望ましい。

2. 交流委員会活動にかかる費用を委員会内で少しでも備蓄する方法として、テーマ性のあるパーティを会費制で催すことを計画している。

その他、依然としてAPSDAとJCDとの関係に不明瞭なところがみられ、JIDの組織活動を折りあるごとに表明しJIDの独自性をアピールしていくことが望まれる。

◆本部情報委員会(吉良)

1. JID本部インターネットについて

1) 11月7日関東事業支部との合同ミーティング実施。

2) 現状のトップページのデザイン及びリンク構成の再検討を行う。

3) JID賞入賞作品を和文・英文ともに行うこととした。

2. 今後の予定

関東事業支部情報委員会との合同ミーティングの継続。

JID賞入賞作品の掲載と英文ページへの掲載。

◆事業推進担当(小宮)

年間事業計画一覧表の作成、及び関係者の書き込み依頼。

◆4事業支部担当(阪井)

50周年記念事業に関し各事業支部にてフォーラムを開催していただき、各支部長が意見を集約提出していただくことに決定、文書にて依頼。

◆JID会員ワーク集2006(オブザーバー、八十常充)

現在応募状況30%程度、25日の締切をみて今後どのようにするか関係者で検討。

[2] 平成17年度収支状況報告(11月末)

事務局長より11月末収支状況報告について説明。

[3] その他

・財務運営資金繰り

事務局長より財務運営資金繰りについて説明。

・次回理事会

平成17年度第4回理事会

平成18年3月24日(金) 13:30～16:30

議長は報告事項について了承を求め、理事会はこれ

を了承した。

Ⅱ 議題

◆第1号議案

平成 18・19 年度組織・役割について

平成 18・19 年度組織図について確認、一部訂正 50 周年記念事業特別委員会を創立 50 周年記念事業特別委員会とする。

議長は承認を諮り、異議なく承認された。

◆第2号議案

平成 18 年度事業計画予算要求案について

各事業支部、本部各委員会、及び管理費について大筋の要求案が出そろい、一応の集計を行った結果を報告。今後細部について 2 月中につめることとした。

議長は承認を諮り、異議なく承認された。

◆第3号議案

「新日本様式」協議会参加の件

新日本様式協議会については不明な点が多く、今後他団体等の動き及び内容を確認する。又、行動は D-8 で考えるべき等の意見があり、参加は見送る。

議長は承認を諮り、異議なく承認された。

◆第4号議案

後援・協賛名義承認の件 (6 件)

●ひょうじょう展

平成 18 年 2 月 23 日 (木) ～ 3 月 14 日 (火)

主催：「ひょうじょう展」実行委員会

リビングデザインセンター OZONE 後援・新規

●第 35 回大阪インターナショナル・ギフト・ショー春 2006

平成 18 年 3 月 15 日 (水) ～ 3 月 17 日 (金)

主催：株式会社ビジネスガイド社 協賛・継続

●ファシリティマネージャー資格試験実力養成講座

平成 18 年 4 月 ～ 5 月末

主催：(社)ニューオフィス推進協議会 (NOPA)

(社)建築・設備維持保全推進協会 (BELCA)

後援・新規

●JCD/DAIKO 連続デザインシンポジウム

東京 平成 18 年 2 月 21 日 (火)

大阪 平成 18 年 2 月 23 日 (木)

主催：JCD/(社)日本商環境設計家協会、

DAIKO/大光電機(株) 後援・継続

●ACT 関西学生卒業作品展 Vol.11

平成 18 年 3 月 17 日 (金) ～ 3 月 21 日 (火)

主催：大阪デザイン振興プラザ

(大阪市・アジア太平洋トレードセンター株式会社)

後援・新規

●2006 年度「インテリアライフスタイル展」

平成 18 年 6 月 14 日 (水) ～ 16 日 (金) 東京ビッグサイト

主催：メサゴ・メッセフランクフルト株式会社

後援・継続

議長は承認を諮り、いずれも異議なく承認された。

◆第5号議案

会員入退会承認の件 (7 件)

●正会員 入会 (1 件)

佐伯隆子 (関東) 推薦人：長岡貞夫、萩原多恵子

●賛助会員 入会 (1 件)

株式会社エフ・エム・アイ 紹介者：大谷竹男

●正会員 退会 (5 件)

以下定款第 8 条 2 項 (4) により退会したものとみなす。

0499 岩澤晴彦 (関東) 0655 卯野木憲二 (関東)

1047 梶清剛 (関東) 1186 梁瀬彦市 (関東)

1219 寺田智子 (関西)

議長は承認を諮り、いずれも異議なく承認された。

◆第6号議案

議事録署名人選人の件

議長は小宮容一、岩倉榮利両理事の承認を諮り、異議なく承認された。

Ⅲ その他の承認事項

1. 関東事業支部研究委員会「OZONE 大・テーブル／卓展」に関し JID 創立 50 周年記念事業プレイベント名義使用承認の件

議長は承認を諮り、異議なく承認された。

2. APSDA 緊急会議出席及び予備費使用の件

上記に付き審議の後議長は承認を諮り、出席及び予備費使用について理事会はこれを承認した。

3. 会員ワーク集に関する件

1 月 25 日の締切を見て関係者で協議する。

議長は承認を諮り、異議なく承認された。

社団法人日本インテリアデザイナー協会 平成 17 年度第 3 回理事会に関し、定款第 26 条に基づき、議事経過及び議決事項を記すため、議長と議事録署名人が記名捺印する。

議長 川上玲子

議事録署名人 小宮容一、岩倉榮利

委員会 報告

選考委員会

担当理事：岩倉榮利
委員長：木村戦太郎

2006年JID賞ビエンナーレ贈賞式など

選考委員会 委員長 木村 戦太郎



2006年1月20日金曜日の午後5時から、新宿パークタワー 6F OZONE ロードサイドスクエア「2006 JID 賞ビエンナーレ展」会場においてJID 賞の贈賞式を行なった。会場には、4時半頃から受賞者をはじめ選考委員やJID 会員が集まり始めたが、それに混じって OZONE 館内の案内で知ったという一般来場者も何組かいて、色々質問される方も居た。その中の事業家とおぼしき男性は、熱心に受賞者達と作品購入やインテリアデザイン依頼の交渉を始め、名刺交換・日程調整まで行っていた。予期せぬ展開に驚くと共に、事情にも明いこの人が目的を持って OZONE に来ていた事を知り、やはり立地、そして、動けば何かが始まる可能性を改めて実感した。

そうこうしている内に、川上理事長や特別審査員の浅倉与志雄氏も到着し、定刻の5時から贈賞式を開始した。まず私から新JID 賞の意図と概要および選考プロセスを説明し、理事長挨拶に続いて各賞の表彰を行った。表彰に用意した賞楯は清水委員のデザインで、透明アクリルブロックに賞名他を記載したカラーシートを挟んだ美しいもので、受賞者からも好評だった。式の終わりに受賞者を代表して、大賞およびインテリアプロダクト賞2点を受賞した nendo に挨拶をお願いし、代表の佐藤オオキ氏は所用で欠席されたが、代理の伊藤義隆氏が受賞の言葉を簡潔に述べられた。

受賞者の多くは6時半からの NEW YEAR'S PARTY にも参加され、其処此处で会員とのデザイン談義に花が咲いた。その流れが“JID 賞若手受賞者フォーラム”に発展し、受賞者達も OZONE 側も前向きだった。

この件は2月の委員会で検討し、来年1月のJID 賞応募要項配布に合わせ、50周年記念事業に連動して実施する方向とした。

選考委員会では3月末に今期最後の委員会を行い、JID 50周年記念ロゴマークの選考を行う予定である。



委員会 報告

総務委員会

担当理事：秋山修治

委員長：伊藤公一

2006 New Years Party のご報告

JID 2006 New Years Party は、1月20日東京・西新宿、新宿パークタワー「クラブスクエア」で開催されました。司会者の進行により、川上玲子理事長から2年後に迎えるJID創立50周年に向けて抱負と今後について語られた挨拶の後、御来賓代表として経済産業省製造産業局デザイン・人間生活システム政策室、三浦健太郎室長のご祝辞に続き(株)リビングデザインセンター、若宮直行代表取締役社長の乾杯によって、新春を祝う懇親の宴が始まりました。このあと御来賓、2005年JID賞受賞者、新入会員、新入賛助会員の紹介や、テーブル展の案内、JIDビジネスパートナーズの概略説明、ワーク集の近況報告、賛助会員カタログ配付の案内など楽しく有意義なNew Years Partyは、小宮容一副理事長の閉会挨拶をもって盛会の幕を閉じました。御来賓含め89名の参加があり、賛助会員の皆様にも多数ご参加頂きました。有り難うございました。



挨拶をする川上理事長

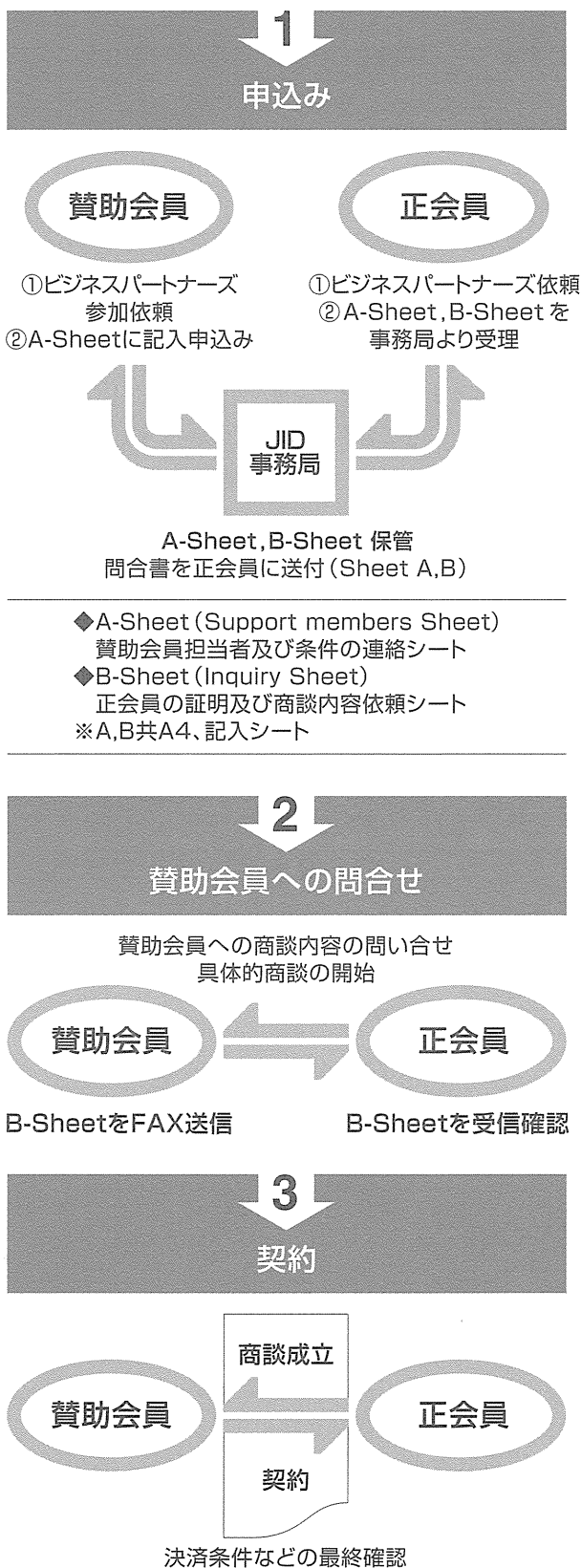
(仮)Jプロジェクトの正式名称が
『JID ビジネスパートナーズ』に決定

かねてより推進していました賛助会員との方々と正会員間のビジネス環境整備の共同プロジェクト名が、1月20日の第3回理事会において、正式名称『ビジネスパートナーズ』に決定いたしました。いよいよ実行スタートに歩み出しました。

昨年11月8日、12月6日、そして今年2月21日の第3回実行委員会において、ご出席頂いた賛助会員19社と共に同プロジェクト3月実行に向け、具体的課題等につき検討協議を重ね構築してまいりました。その結果、フローチャート(右図)が出来上がりましたのでご報告申し上げます。 総務委員 井出 昭子

JID BUSINESS PARTNERS

■JIDビジネスパートナーズ■フローチャート■



委員会 報告

情報委員会

担当理事：清家淳一
委員長：八十常充
ワーク集編集委員長：山崎晶

「JID会員ワーク集2006」17年度発刊中止!

会員の皆様

この度はJID 会員ワーク集に参加のお申し込みを頂いた方々、又その編集のためにご苦勞を重ねてこられた委員の方々に対しては大変心苦しく残念な決定となりました。心よりお詫び申し上げます。

理事会の意向はあくまでも取り止めではなく、発行の時期を少し先に見送り、創立 50 周年に向けた内容でより充実したワーク集を目指すことで、今回はこのような結果になりましたことをご容赦頂きたいと思えます。

理事長 川上 玲子

まことに残念なご報告です。

「JID 会員ワーク集 2006」の発刊については 17 年度第 4 回理事会 (3 月 24 日開催) において長時間審議の末やむなく 17 年度発刊は中止と決定されました。原因、問題点はいろいろありますが、掲載応募者 (3 月末 42 名 / 当初予測 100 名) と広告申込 (3 月末 3 社 / 当初予測 30 社) の予想外の少なさが決定的な要因です。出版事業として収支が赤字となってしまうためです。

	会員数	応募数	応募率	広告申込
関東事業支部	262名	24名	0.91%	2社
中部事業支部	36名	5名	1.39%	
関西事業支部	61名	12名	2.00%	1社
九州事業支部	20名	1名	0.50%	
	379名	42名	1.10%	3社

前回 (2004 年版) を参考に作成した出版計画では、応募者 100 名 掲載料 300 万円、広告 30 社 掲載料 150 万円をベースに、販売収益、本部積立金などを加算した収入見込み、合計 650 万円に対して、A4 150 頁 (オールカラー) 1,500 部、エディトリアルデザイン、印刷、製本代等外注費 450 万円、送料その他諸経費を加算した支出合計 650 万円を試算しました。(収入=支出) しかしながら、結果として応募者数 42 名、広告申し込み 3 社という数字から試算を修正すると、掲載料 135 万円、広告収入 45 万円にワーク集販売収益、本部積立金を加算しても収入合計は 340 万円が精一杯のところでした。

一方、支出面では、A4 75 頁 1,500 部の規模縮小で、外注費 320 万円、送料その他諸経費を 100 万円に抑

えても総計 420 万円となり、差引き 80 万円ほどのマイナスが予測されます。(収入-支出=-80万円)

現在の財務運営でこのマイナス事業は極めて困難という判断から発刊を断念することに決定致しました。

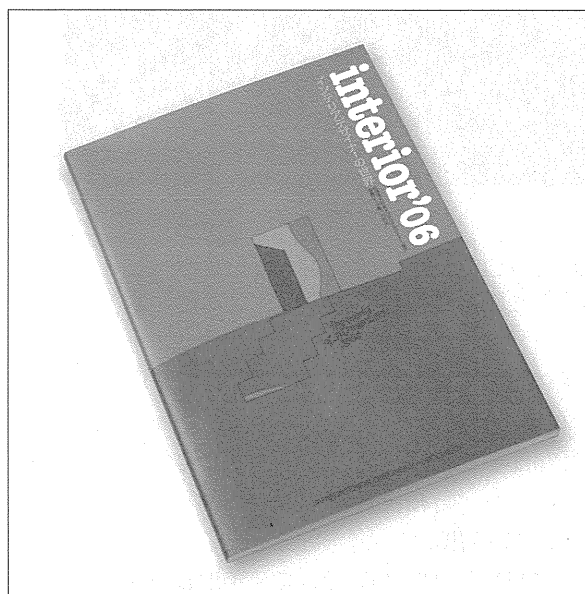
理事の皆さんからは 50 周年事業に絡めての多くの意見が出ましたが来期以降の課題として継続検討してまいります。

今回、応募いただいた 42 名の方々には、撮影に、コメントに、ユーザーの掲載承認と、大変な時間と経費を費やされ、また掲載料の振込みまで頂きまことに申し訳なく思っております。改めてお詫びを申し上げ、すみやかに事後の手続きをいたす所存です。

なお、編集の段階で中止となりましたので、現在までの作業 (表紙デザイン、レイアウト、作品返却、返金振込等) に対しての費用が 45 万前後かかりますが、誠意をもつて事務処理にあたります。

「継続は力なり」の言葉が時代の変化について行けなかったのでしょうか。しかし諦めずにまいりましょう。

情報委員会担当理事 清家 淳一



幻の表紙デザイン

委員会 報告

交流委員会

担当理事：坂本和正
委員長：小野由記子

APSDA 緊急会議



2月21日～23日まで上海にてAPSDA（アジア太平洋空間デザイナー団体連合）緊急会議が召集され、川上理事長と交流委員会より酒井が出席してまいりました。会議詳細については、川上理事長からの報告をご覧くださいと思います。今年度は、5月のAPSDA台北会議に始まり、9月のIFI（国際インテリアアーキテクト＆デザイナー団体連合）コペンハーゲン総会、ERA 05（北欧で開催されたインテリア・インダストリアル・グラフィックの合同国際イベント）への参加、そして今回のAPSDA上海会議と1年間に3回の国際会議とイベントへの参加を行い、その準備や手続き、報告会の開催等、交流委員会では例年になくタイトなスケジュールで活動してまいりました。

今後の予定としては、今年11月にマレーシアでAPSDA 2006 総会、来年は釜山でIFI 2007 総会、そして2008年はAPSDA シンガポール総会と、しばらくアジア地域での開催が続く、JIDの50周年とも重なることから、ぜひこの機会に交流委員会では、アジア諸国との交流の場を日本でも企画できないか検討してまいりたいと思います。 本部交流委員会 酒井 正人



JIDNEWSKANSAI

関西

KANTO

KYUSHU

CHUBU

USD-O新春の集い・hallo! 2006

関西事業支部 副支部長 八十 常充

2月3日節分の日、大阪梅田の中心街を見下ろす梅田スカイビル 39F のレストラン天風でUSD-O（大阪デザイン団体連合機構）恒例の関西デザイン 10 団体による新春の集い・hallo! 2006 が行われました。

参加者は大阪デザインセンター理事長 坂下清氏、近畿経済産業局サービス産業室長 内海美保氏をはじめ、大阪府商工労働部や大阪府産業デザインセンター、大阪市経済局産業振興部、(財)国際デザイン交流協会、(社)関西経済連合会などゲスト 11 名と併せて、会員団体から 40 名余りの会員が集いました。

JID 塚口眞佐子会員の名司会によって、USD-O 山田崇雄会長の元気な関西デザイン界のアピールからスタート。ストリングスの調べをバックに和やかな懇談と有意義な交流の 2 時間余りを楽しく過ごしました。



USD-O 大阪デザイン団体連合機構加盟団体

- OIS 大阪府インテリア設計士協会
- KDOU (協) 関西デザインオフィスユニオン
- SPK スタジオフォトグラファーズ
- DAS (社) 総合デザイナー協会
- JIDA (社) 日本インダストリアルデザイナー協会
関西ブロック
- JID (社) 日本インテリアデザイナー協会
関西事業支部
- OAC (社) 日本広告制作協会 関西支部
- SDA (社) 日本サインデザイン協会 関西地区
- JCD (社) 日本商環境設計家協会 関西支部
- DDA (社) 日本ディスプレイデザイン協会 関西支部

日本で初めての

「大・テーブル/卓」展について

JID 関東事業支部 研究委員会

JID テーブル展実行委員会 委員長 長岡 貞夫

皆さんご承知のように、JID は 2008 年に創立 50 周年を迎えますが、さる 1 月 24 日理事会で 50 周年事業のプレイベートとして「大・テーブル/卓」展が承認されましたことをお知らせします。

ところで「大・テーブル/卓」展も 11 月の開催まで余すところ 8ヶ月に迫ってきました。そこで、展覧会計画の今までの経緯について少し触れておきたいと思います。

一昨年に関東支部の研究委員会で家具部会が発足し、研究テーマとして「テーブル・卓」について発案があり計画がスタートしました。研究成果の発表の手法はさまざまですが、一般ユーザー、プロ、学生など多くの人が、JID の発する情報に接する場として展覧会が効果的ではないかとなり、昨年 1 月に本展の企画素案をリビングデザインセンター OZONE にプレゼンを行い、6 月に正式に OZONE の平成 18 年度事業として、全面的な協力をいただくことになり本展の開催が正式決定しました。会期は 11 月 9 から 12 月 5 日の 4 週間、OZONE 全館での展示となり相当数の集客が期待されます。

日本で初めての
「大・テーブル/卓」展

会期：2006 年 11/9 (木)～12/5 (火) 4 週間
会場：リビングデザインセンター OZONE
主催：リビングデザインセンター OZONE
企画/運営：(社)日本インテリアデザイナー協会

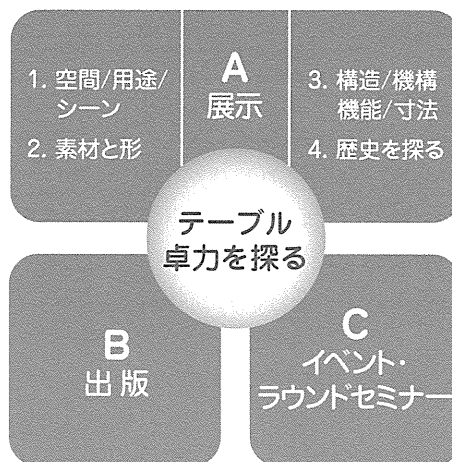
テーブルのデータ収集

展覧会の開催をうけて、まず委員会では昨年 7 月からテーブルの市場調査として、データ収集を正会員、賛助会員の皆さんに「あなたの推奨するテーブル・卓」の選定協力をお願いしましたところ、56 名の方々から 917 点のテーブル製品のデータが寄せられました。この基礎データをベースに用途別、企業別分類による台帳を作成しました。この台帳をもとにさらに委員会では「テーブル・卓」の、それぞれの商品のデザイン、素材、機能、機構、サイズ、用途、空間力などの視点から、十数回討議を重ね展覧会に向けて 336 点に絞り込みました。さらに現在は展示品の選定候補約 150 点と、連動企

画の「出版」の掲載候補約 250 点（一部展示品と重複）のスペック等を委員会で精査調整中です。以上が展覧会に向けて基本設計ともいべき第一ステージの委員会活動です。現在、本展を推進している委員会は、展示チームと出版チームで構成し 15 名の委員が同時並行で作業をおこなっています。4 月の新年度からは第 2 ステージの実施段階となります。関心のある人の積極的な参加とご協力をお願いいたします。

展覧会構成（企画書より一部抜粋）

身の回りを見渡せば、室内外を問わずそこにテーブルありきです。空間を演出するインテリアエレメントで重要なテーブル・卓を取り上げた日本で初めての展覧会です。本展ではさまざまな生活の場面や状況でテーブル・卓の果たす役割を「展示、出版、イベント・セミナー」で立体的に検証し、そこから新たな「テーブル・卓」力を探り 21 世紀のライフスタイルのあり方を提案します。



上図に示すように「展示」をコアにこれに連動する「出版」と展示を動的にするためのイベント、ラウンドテーブルセミナーなどの演出も企画しています。

テーマは「これからの日本のかたち」

インテリアのより良き空間の創造に携わるプロ集団としての JID もこの期に社会へ向けてインパクトのある情報を積極的に発信すべきでしょう。

21 世紀にはいり、生活をとりまく環境にも、日本の歴史、伝統・風土など新たな視点で見直し活性化を図ろうとする機運が各界でみられるようになりました。

昨年 7 月に経産省が打ち出した「新日本様式…」世界に日本の伝統文化を再提言するなどが一例です。

そこで、展覧会のテーマも「これからの日本のかたち」をキーワードに、これに沿って、テーブル/卓を 7 つの切り口で多様に展示展開しようというものです。

以下は、現在委員会で検討している主な展示ゾーンごとのテーマ展開の一例です。

A 展示

- 「美脚を魅せる」ガラス卓上でのモノとの関わり提案 (JID)

- 「7つのテーマ」による

テーブル/卓と空間・モノとの
かかわり提案

インテリアデザイナー + 各界の

著名人による提案

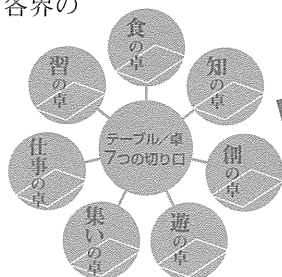
・インテリア/プロダクト/
クラフト/ファッション

デザイナー

・建築家・料理家・画家

・アーティスト・華道家

・書道家 など



企画書より抜粋

- 「不易流行」日本の歴史、伝統・風土などのしつらい等へのオマージュ提案 (JID)

1. 銘々膳、卓袱台・茶の間へのオマージュ
(「食の卓」「集いの卓」として卓+空間提示)
2. 囲炉裏へのオマージュ
(ユカ座のくらし「集いの卓」「遊の卓」)
3. 文机・帳箱・二月堂・文台へのオマージュ
(「知の卓」「習の卓」「創の卓」「仕事の卓」)
4. 茶道へのオマージュ(イス式、茶道「遊の卓」「創の卓」)

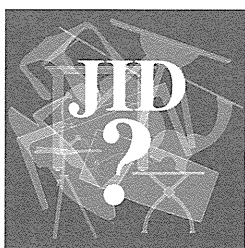


- 20世紀東西のテーブル/卓30選

アールヌーボから戦後まで 近代を代表するデザインコレクション

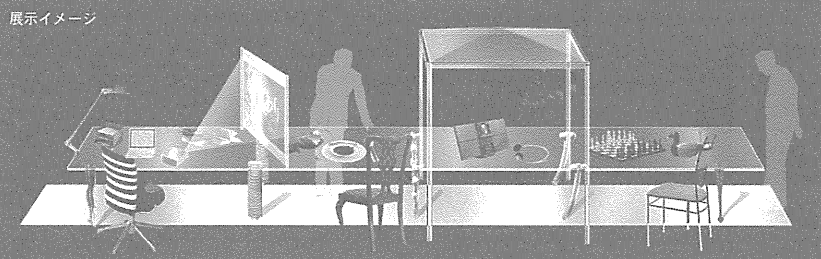


- 「素材を生かす」〈JID会員ゾーン〉



JID賞+JID会員

新作テーブル約40点展示



B 出版について

この本は、テーブル/卓の華麗なる物語世界を探索しようとする人たちにとってはエンサイクロペディアであり、素晴らしいテーブル/卓で暮らしを豊かにしたいと計画する人にとって有益なバイヤーズガイドでもある。

〈編集概要〉

- ・書名「TABLE DESIGN」仮称
- ・英語/日本語バイリンガル
- ・菊判(228×300)、200ページ(カラー160ページ)
- ・発行部数:約4000部
- ・発行日:展覧会に同調

〈構成案〉

第1章:華麗なるテーブル文化

(テーブル小史、映画、小説絡みのエッセイなど)

第2章:テーブル・デザイン・ノート

第3章:国内外の名作テーブル

第4章:JID選定 200 テーブル

データ:テーブル取り扱い企業一覧

C イベント・ラウンドセミナー

- ・「長卓」上パフォーマンス
※会場:3F/OZONEプラザ(予定)
〈蕎打ち、テーブルマジック、IT機器・クラフトワーク実演など〉
- ・テーブル再発見 ラウンドテーブル・セミナー
※会場:全館一展示場巡回ツアーとセミナーとリンク
(聞いて、見て、触れて)… 週2日、計8日(JID会員による)

最後に

JID 活動としては、平成 18 年度事業となりますが、企画等の基本設計段階から具体化の実施設計の段階となります。また、本展の主旨に賛同いただける企業、個人、関連諸団体等の協賛・後援など今後皆様のご協力をえながら、オール JID 事業として魅力ある展覧会にしようではありませんか。

九州

KANSAI

CHUBU

KANTO

JIDNEWSKYUSHU

九州事業支部主催で初めて
学生家具コンペを開催!

九州事業支部 飯田 一博

九州事業支部の2005年事業として、福岡県家具工業会主催の新春展において、「学生ファニチャーデザインコンペ2006」を計画していましたが、今年度より福岡での開催が中止され、大川家具工業会と一緒に大川の新春展に合同で開催されるようになりました。

今年は断念かと思っていましたが、賛助会員の(株)アダルの協力で、企画展の一文化を超越したデンマーク家具デザイナー「ポーエ・モーエセン回顧展」と同時開催で平成18年1月21～22日の二日間、第三回「座る形展」を開催できました。

これまでは九州産業大学だけの学生の展示会でしたが、今回から九州造形短期大学の学生も新たに加わりました。併せて、支部主催の「第一回学生ファニチャーデザインコンペ2006」を行いました。

審査委員には賛助会員の(株)アダルの開発室長の鎌田豊也氏、(株)サカイの堺道明氏、浜本康一氏、(株)添島商店インテリア部課長石橋直樹氏、(株)リッツェルの商品部、吉田健吾氏の5名と、JID 中川幹事、山永理事他5名の会員の合計12名の審査員で審査を行いました。参加者は12点(13名)の中から最優秀賞1点、優秀賞2点、奨励賞3点が選ばれました。

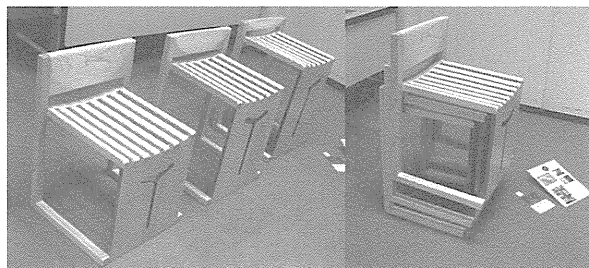
初めての九州支部主催の学生コンペでしたが、支部の賛助会員5社中の4社の代表が参加して頂いたのも初めてのことでした。

最優秀賞の安部裕一郎君の作品「BOX CHAIR」は座面の取手を上に持ち上げるだけで持ち運びのできるスツールで非常に動きもスムーズで、文句なしの最優秀作品でした。



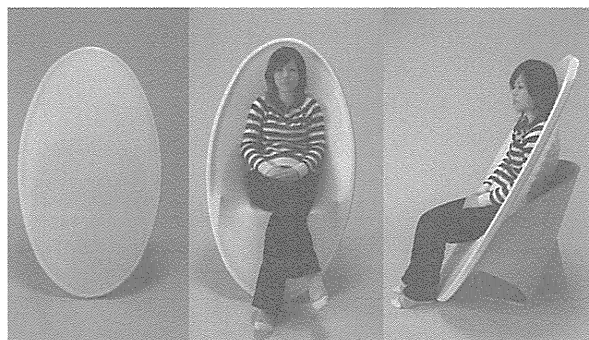
最優秀賞「BOX CHAIR」

優秀作品は2点、飯田真生君の作品は形の違うスタッキングスツール。同じスツールや椅子のスタッキングは多く見られますが、形の違うスツールのスタッキングというところが面白い!



優秀賞「重ースタッキングスツール」

半田絵美さんの作品は意外性!「elastic chair」は伸縮性のある布地を使った椅子。これは何だ?



優秀賞「elastic chair」

奨励賞は3点井口裕太君の作品は「平直」シンプルなフォルムはデザイナーの支持を得ました。神園千尋さんの作品「凹」白い格子のスツール、好みで使い方が色々。梶原美希さんの「stool-台形+菱形」は組み合わせで円や直線、棚にまで変身できます。

第一回の学生ファニチャーコンペでしたが、他の学生達の作品もいずれも努力の跡が伺えました。審査員から、今回初めてのことであり、全員に努力賞をということになりました。その後新年会の会場で入賞者の6名に賞状とトロフィーの授与、審査員も含めて学生達と会員のデザイン談義も弾み、なごやかに懇親会も無事終了しました。

参加学生も2日間、見学者や審査委員に作品の説明をしたり、自分の作品の感想や意見を来館者から実際に聞いたり、学校の中だけでは分からない貴重な経験になったと確信しています。今回開催が危ぶまれていた中での開催で、参加校が2校と少ないのですが、第二回デザインコンペへ向けての良い実績づくりになりました。来年はもっと多くの大学や専門学校にも声を掛けて参加校を増やしたいと思っています。

JID中部+ACT中部 交流

JID-ACT中部担当 杉崎 晃久

1月21日(土) JID中部では新年会を開催しました。本年度からACT中部のメンバーも参加し幅広い年代のにぎやかなデザイン交流会となりました。

更に、新年会と合わせた新しい試みとして JID 中部では尾張の「物づくり探訪」の一環で、2006 再発見プロジェクトを企画します。

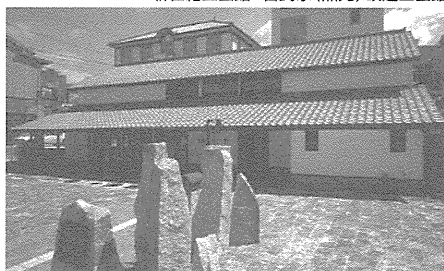
1年を通したテーマを、調査・創造・発表する場をつくり、これからの日本経済の向上に少しでも役立てることを基本思想に提案していきます。

今年のテーマは、「陶磁器」中部の各所を廻り、歴史から素材までを再認識してインテリアデザインの中での陶磁器のこれからの可能性を追求。



窯垣の小径

新世紀工芸館 古民家(窯元)改造工芸館



瀬戸蔵ミュージアム 20世紀の瀬戸の町をジオラマで再現



第1回目として「せともの」で有名な瀬戸を探索、午後からの企画でしたが多くの方が参加していただき、名鉄瀬戸線尾張瀬戸駅前の平成17年3月にオープンした、産業観光の拠点施設 瀬戸蔵ミュージアムをはじめに、陶芸とガラスの「今」を追及する、新世紀工芸館を見学、続いてバスで移動、窯垣の小径(かまがきのこみち)を散策。途中には窯垣の小径資料館・ギャラリーなどがあり参加者はカメラ片手に興味深く見学していました。今回は瀬戸の人々・文化・せとものとかかわりの原点を感じる事が出来ました。

その後、新年会が開かれ、各自自己紹介・会員の経験談、学生達の将来の夢など聞けて楽しいひと時を過ごせました。

2回目は夏頃に常滑を探索予定。多くの方の参加をお待ちしております。



JID中部学生賞授与に関して

ACT関連事項として報告します。

中部事業支部ではインテリアデザインの役割や将来性、社会貢献・若手の育成・協会活動等の一般への周知のため、独自の活動としてインテリア関連の学校・専門学校等に年一回各校に1名(または1作品連名)に対して「JID中部学生賞」を授与する活動を行っています。今までは専門学校名古屋デザイナー学院・愛知工業専門学校・名古屋総合デザイン専門学校の3校に贈っていましたが、今年度より名古屋学芸大学・名古屋造形大学短期大学部・トライデントデザイン専門学校にも贈ることになりました。今後とも学校関係者皆様にご理解いただき、活動にご協力いただきたいと思います。JID中部HPにて受賞者速報をUPしています。

第3回CCDOデザインアワード2005 木辺智子会員が受賞

この度、JID中部事業支部推薦の木辺智子会員が、CCDO(中部デザイン団体協議会)デザインアワード2005(インテリア部門)を受賞しました。なお、受賞者発表展は、2006年3月1日(水)～6日(月)国際デザインセンター4階・デザインギャラリーで開催されました。



受賞のご挨拶 ————— 木辺智子

今回の受賞は日頃よりの、皆様のご支援の賜物と感謝しております。3月1日のオープニングパーティにはお忙しい中、たくさんの方々にお集まりいただきました。

受賞者は中部で活躍のグラフィックデザイン・クラフトデザイン・インダストリアルデザイン・ジュエリーデザイン・陶磁器のデザイン・建築家・商空間デザイン・ディスプレイデザイン・インテリアデザインの方々10名でした。皆さんに混じって受賞できたことは大変嬉しく光栄に思います。

こんな機会はめったに無いことなのでいろんな方にメールや案内のハガキを送りました。小学校や高校・短大の恩師にまで・・・

いろんな方に展示会を見に来ていただいて、懐かしい方々にも会うことができました。今後ともこれを励みに仕事に、JID活動に頑張っていきたいと思います。

今後のご発展とJID活動でのご活躍を期待しています。

新会員 紹介 正会員

- ①会員名 ②会員番号(支部) ③推薦者
④勤務先・事務所 ⑤自宅



①佐伯 隆子
さえき たかこ

- ②1261(関東事業支部)
③長岡 貞夫・萩原 多恵子

④アダージョデザイン二級建築士事務所

〒142-0063 東京都品川区荏原7-18-14

Tel/Fax:03-5498-1839

新会員 紹介 賛助会員

※賛助会員数59社(平成18年3月現在)

株式会社エフ・エム・アイ

会員番号3186

〒150-0012 東京都渋谷区広尾1-11-5-318

Tel/Fax:03-5498-1839

代表取締役 増山 史枝

推薦者:大谷 竹男

事務局からのお知らせ

会員異動のお知らせ

※「会員名簿」該当ページをご訂正ください

◆正会員

・勤務先部署変更

会員番号0842 小野上 勝志 会員名簿・関東p.5
株式会社伊勢丹 MD統括部
商事ギフト部シニアマネージャー
Tel:03-3225-6106 / Fax:03-3225-6026

・勤務先住所変更

会員番号1051 柴田 弘子 会員名簿・関東p.8
株式会社AIダイジェスト
〒870-0021 大分県大分市府内町3-3-19
Tel:097-538-6242

・Eメール変更

会員番号0795 鈴木 和子 会員名簿・関東p.8
kazuko-suzuki@w4.dion.ne.jp

・勤務先住所変更

会員番号0850 道明 三千代 会員名簿・関東p.10
株式会社川島織物
インテリアリモデル営業部
〒101-0047
東京都千代田区内神田1-14-16
Tel:03-3294-4624 / Fax:03-3294-4626

・勤務先住所変更

会員番号1130 唐来 弘光 会員名簿・関東p.10
自宅と同じ

・勤務先住所変更

会員番号0336 檜原 豊郎 会員名簿・関東p.11
株式会社エヌ建築デザイン事務所
〒158-0093 東京都世田谷区
上野毛1-34-18 カーサグラン上野毛502
Tel:03-3703-4821 / Fax:03-3703-4822

・勤務先住所変更

会員番号1034 三輪 英生 会員名簿・関東p.14
インターデコール株式会社
〒108-0071 東京都港区白金台5-3-7
Tel:03-5793-7291 / Fax:03-5793-7784

◆賛助会員

・社名変更

会員番号3016 会員名簿・賛助p.27
株式会社インテリアセンター
(新) 株式会社カンディハウス
Fax:0166-49-2225

・担当者変更

会員番号3157 柏木工株式会社 会員名簿・賛助p.27
株式会社カシワリビング
代表取締役 関 道和
〒104-6201
東京都中央区晴海オフィスタワーZ1階
Tel:03-5166-8320 / Fax:03-5166-8322
E-mail:tokyo@kashiwa.gr.jp

225号の変更

・住所変更

新会員(賛助会員)紹介 会員名簿・p.15
株式会社川島織物インテリア
〒101-0047 東京都千代田区
内神田1-13-12 セルコン本館3F
Tel:03-3294-4653 / Fax:03-3294-4652

訃報

川端 二郎 氏

(関東事業支部 名誉会員)

平成17年6月28日逝去 享年84歳

謹んでご冥福をお祈りいたします。

JID news

企画・編集：本部情報委員会

JID News 担当理事	清家淳一
JID News 委員長	八十常充
// 委員	山崎晶
// 関東事業支部	佐藤健一
// 中部事業支部	小林修
// 関西事業支部	塚口眞佐子
// 九州事業支部	下田隆

——あとかぎ——

雑誌「室内」がこの3月号で休刊になるとのこと。誠に残念。

インテリアを生業としている者にとって、いつも頼りになる座右の書として付き合ってきました。デザインの場に、インテリアの現場に、インテリア教育の場にいつも役に立つ情報誌でありました。幅広いユニークな情報収集は定評があり創始者の山本夏彦氏の編集思想はインテリアを志す若者に大きな指標を与えるものでした。

後を引き継いだ先代のご子息山本伊吾さんにも雑誌編集子としての実績から大いに発展を期待していたのですが3年足らずでご自分の勤めにあらずと筆を折ってしまわれました。創刊50年。さる3月6日の朝日新聞に“天寿を全うした「室内」”としてご挨拶の記事を載せられました。たった50年で天寿とはいかがなものかと思うのですが、記事の終わりに“創刊当時と違ってこの世界にスターが少なくなった。”“時代も変わった。”と述べられたことに愕然としたものです。そうだろうか本当に。皆さんはそう思いますか。あながち否定は出来ないし、なぜそうなったのかは大いに議論の余地のあるところ。それはそうだと、そのためにも続けてほしかった「室内」ではありましたが。

この「室内」休刊については、JIDとしてヒトコトあってほしかったし、会員諸氏のお考えもありましょう。ぜひJID newsにご意見をお寄せ下さい。またこのことに限らず、諸事皆さんの意のあるところをお寄せ下さい。そんな頁を作りたいと思っています。

山崎 晶

No.231

発行日：平成18年3月31日

編集デザイン：西尾直事務所
印刷：株式会社岡本印刷所